

基地建設は止められる！

全港湾大阪支部

昨年末に、沖縄現地での辺野古新基地建設阻止の闘いに参加された全港湾の仲間、現状報告を含めて原稿を寄せていただいたので、紹介します。

編集委員会

国交省によって埋立承認撤回の効力を取り消され、工事が再開されたとの報を聞き、昨年十一月二七日～三〇日の四日間、辺野古ゲート前座り込み行動に行った。

「工事再開」とは言うものの現地の人の説明によると、その実態は、アライバイ的に「周辺業務」を行っているだけで、土砂の投入や護岸の延伸工

事は行われていないとのことだった。現在、キャンプシユワブで進行中の

工事は三種あり、一つは兵士の厚生施設移転工事のための生コンプラントの建設、二つ目は基地から国道329号をくぐっている道路の拡幅工事、そして三つ目はK9護岸の延伸工事。しかしこの工事は、栗石を岸壁に山積みになっているだけで、

実際の工事には着手できていないとのことだった。

このような『アライバイ工事』ゆえに、工事用車両の入る時刻は、以前のようには不規則ではなく九時、十二時、十五時と一日三回、定時だった。

十一月二七日朝、県庁前九時発のオール沖縄会議の大型バスで現地向かった。バスには計十八人が乗車していた。うち県外からは、北海道、群馬、千葉、東京、横浜、大阪の計七人。辺野古到着までに、それぞれが自己紹介や参加の動機、決意などを語りあう有意義な時間を過ごした。辺野古には複数回来ている人



現在のゲート前。水タンクが並んでいる

が多く、年間一〇〇日以上滞在しているという人も居た。しかし、相変わらず高齢者がほとんどで、この点では寂しいものがあった。

到着した日は座り込み開始一六〇四日目。建設側のゲート前「防衛」方は、以前にのような「カマボコ車の置きっ放

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

し」はもったいないとでも考えたのか、代わりに昨年の四月からは、重さ三〇〇kgはありそうな水槽のタンクを二五個ほど並べて、進入を阻止する形に変わっていた。

私たちは車両到着三〇分前の八時半から第一回目の座り込みを開始。工事車両は、遠方で隊列を整えて、パトカーに先導されて（！）やってくる。ゲート前の隊列は、奥から、緑色の大型の網柵、その前列にアルソックのガードマンが二〇人（人数は決まっている！）、その手前の道路側に私たちが簡易椅子を置いて座り込む。座り込み者は一

列に二五人ほどが並び、人数に応じて列が増える。私たちの前には阻止用の水タンクが並び、その後ろの車道に機動隊が立ちはだかる。このため、車道は車が通れなくなる。

座り込み隊は、数人のアピール等の後、「沖縄今こそ立ち上がろう」と「座り込めここへ」を全員で歌う。こうしているうちに機動隊が「立ち退け」と警告を繰り返す。三回の警告後、「排除！」の命令と共にゴボウ抜きが始まる。昨年は、横の人とスクラムを組んで簡単に抜かれないようにしたが、機動隊員が、見えないようにヒネるなどし

て腕を痛める人が続出したので、今は、スクラムは組まず個人で抵抗している。しかし、悔しいがこの分、抱えられるのは早くなる。

私は「歩きますか？」と訊かれたので（機動隊員は一応、全員にこのように言う）、「アホか！歩くぐらいなら座り込むか！」と言うと、両腕と足を三人がかりで抱えられて、歩道上に造られた「檻」まで運ばれた。「檻」とは、車道と歩道の境に金属製の衝立を並べ、連れてきた座り込み者を衝立の向こう側の歩道に「捨てる」。排除者の両側には機動隊員が柵



ゴボウ抜きされて歩道に運ばれる反対派

代わりに立ちはだかるので、もう一度、座り込みに戻ることはできない。こうして、三〇分程度で排除を終えて車が入り出す。

排除開始直前。工事用車両が遠方で待機



私が滞在中、搬入車両は栗石を積載したダンプ、ミキサー車、バラセメント車などが、二七日は百十四台、二八日は百三十八台、二九日は百五十七台、三〇日は百四十二台と、いずれも一〇〇台を超えていた。しかし、昨

「一秒でも一分でも遅らせる」決意でたたかう

年八月初旬の最大五〇〇台超という数からすれば、非常に少ない。やはり、埋立用土砂の投入は海から行い、大浦湾側は、例の“マヨネーズ状海底”ということ、本格的な工事ができないためと思われる。

座り込み者はおおよそ、二七日・一六〇人、二八日・三六〇人、二九日・一四〇人、三〇日・一四〇人という数だった。曜日では、やはり「集中行動日」の水曜日は多く、一日では十二時の時間帯が最も多い。県内はオール沖縄会議が北部・中部・南部と分けていて、毎日、その地域の各市町村から参加してくる。

基地内は、すぐに全四車線の広い道路になつて

いるが、座り込みが続いているために、片側しか使えない。その上、搬入車両が全部入った後に、

出場車両が一斉に出ていかなければならない。座り込み自体は短時間で排除されるが、もし、座り

込みがなければ、四車線をフルに使って、常時車両が出入りし、工事はスムーズに進められる。この意味では、座り込みは非常に有効であるし、結果、工事は当初予定よりすでに四年も遅れている

ということだった。

オール沖縄会議では、これからも、一秒でも一分でも工事を遅らせる決意であり、一人でも多くの人が座り込み行動に参加するよう、呼びかけている。

二八日、二九日の夜八時過ぎから、夜間飛行訓練なのか、オスプレイが不気味な轟音を響かせながら、二時間以上に亘って辺野古の住宅地の上空を飛んでいた。アメリカでは禁じられている『住宅地の上空飛行』について、一言も言えない、言わない日本政府に、改めて情けなさを感じた。

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

新基地の滑走路は二二

〇〇と普天間の二八〇

〇より短く、米軍は、

民間施設（那覇空港）の

使用を求めているとのこ

と。「米側との協議また

内容の調整が整わなけれ

ば、返還条件が整わず、

（普天間基地は）返還さ

れないことになる」（二

〇一七年六月十五日 参

院外交防衛委員会での稲

田防衛大臣発言）。こん

な馬鹿な話があるか！

昨年十二月十四日から

防衛省は、琉球セメント

の岸壁から土砂を積み込

み、辺野古南岸に投入し

ているが、これは明らか

に工事の変更であり、知

事の許可なしにはできな
い。

このように、違法だろ

うがなんだろうがお構

なしの強引なやり方で、

軟弱地盤や活断層の存在

する超難関工事を、「膨

大」と言うには余りにも

大きすぎる国家予算をつ

ぎ込んで、いつまでも続

けられるわけがない。私

たちが闘い続けるならば、

基地建設は必ず阻止でき

ると思うのは私だけでは

ないだろう。

*ご存じの方も多いと思

いますが、辺野古・高江

の日々の出来事は、プロ

グ「チヨイさんの沖縄日

記」を読むとよくわかり

ます。

組合つぶしの権力弾圧に反撃を！

元旦行動に二〇〇人結集

員一金属支部 K

昨年大阪府警による

関生支部への不当弾圧に

対して、一月一日の一〇

時から、大坂城の教育塔

前で「労働組合つぶしの

大弾圧を許さない実行委

員会」が主催する集会、

府警本部を一周するデモ

が開催されました。現地

には、二〇〇人を超える

仲間が結集し、大成功の

集会&デモになりました。

不当拘留の仲間の早期

奪還へ、共に闘おう！



組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！